

事務事業評価表 平成24年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 都市型農業の推進
 基本事業 潤いと活力に満ちた農村の実現

事業名 **排水路維持管理経費**

[5038]

部名	経済部	事業開始年度	平成19年度	実施計画事業認定	非対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>農業用排水路</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>農業地域に存する排水路の排水能力を維持する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>江別市土地基盤整備事業規則に基づき床浚いは事業費の2/3、草刈は事業費の1/2を補助する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	排水路の数	条	88	88	88	88
対象指標2	排水路延長	m	88,080	88,080	88,080	88,080
活動指標1	補助金額	千円	2,375	2,643	2,719	2,989
活動指標2						
成果指標1	排水路床浚い延長	m	3,570	4,040	3,630	4,230
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	2,375	2,653	2,858	3,134
正職員人件費 (B)		千円	1,660	2,418	1,605	1,619
総事業費 (A) + (B)		千円	4,035	5,071	4,463	4,753

費用内訳	
23年度	委託料 139千円、負担金 補助及び交付金 2,719千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	江別市の農業用排水路は昭和30年代を中心に造成された素堀水路が多く、経年劣化が著しいため、定期的に床浚い等の補修を行わなければならないことから、昭和51年に本事業が発生した。5年単位で計画を作成し、現在は第7次(H19~23)である。	事業を取り巻く環境変化	H14~18の計画は、江別市の財政状況を考慮に入れ、予算額の1,000万円の範囲内で実施を行い、H17より不法投棄対策にかかる予算を計上した。なお、本事業実施地区のうち、H19年度より農地・水環境保全向上対策(共同活動)実施7地区は本体策へ移行し、その中で実施中である。
--------	---	-------------	---

23年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由・
根拠は?

公共の水路が対象となっているため妥当です。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由・
根拠は?

排水路の整備は、ほ場が低平地にある本市の場合、極めて重要であり、貢献度は大きいと言えます。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか?

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由・
根拠は?

5年計画をベースにしながらも、毎年度、ヒアリングを実施しながら、予算内で最も効率が上がるように路線を選定しており、期待通りの成果が上がっています。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は?

すでに予算内で最も効率が上がるように路線を選定し実施しており、期待通りの成果が上がっているため、更なる成果向上の余地はありません。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

ある

ない

理由・
根拠は?

地元の工夫で床浚いは安価な発注時期を設定し、土砂置き場の提供や作業の参加等を行い、草刈は直営施工で行っています。高齢者が多くなる農村地区の現状を考慮に入れると、これ以上の地元の負担は厳しいと思慮します。